

# 控室

定例会冒頭、門脇市長の市政報告で、6月1日・2日に秋田駒ヶ岳で起きた滑落事故についての報告があった。1日は「秋田駒の山開き」が行

われ、男岳登頂後、国見温泉側へ向かう途中、雪渓に覆われた斜面より滑り落ち、田沢湖の女性1名が死亡、2名がけがを負った。2日には、ほぼ同じ場所です登山中、登り斜面で転倒し頸椎骨折で盛岡市の男性が死亡した。市ではすぐに注意喚起看板やプレートを設置し、再発防止策をとった。

「山ガール」「富士山の世界遺産登録」等で、過熱気味の登山ブームに【山は神聖で危険と隣り合わせの一面があることを知りなさい】との自然界に棲む「山の神」の人間への警告にしては、あまりにも悲惨な事故であった。今後は、万全な装備・安全対策と、登山者の心構えが山の事故防止につながることを再認識した出来事であった。

(熊谷一夫記)

## 傍聴席

### 仙北市議会を傍聴して

佐藤 康夫

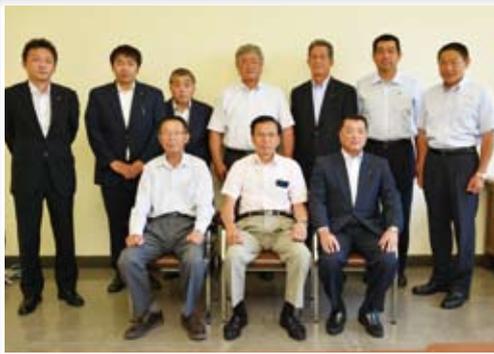
「市議会」と聞くと、独特の緊張感や白熱した議論の応酬で、私とは縁遠い存在ではないかと以前は感じていた。しかし、実際に傍聴すると、激務ながら笑顔の絶えない門脇市長や、各種イベントなどでも共に汗し気軽に相談できる市議会議員の皆さんをより身近に感じるとても良い機会を得ている。

そんな中『仙北市民のため』門脇市長と市議会議員の皆さんが同じ目線で知恵を出し合い、懸命により良い議論を積み重ねている姿を拝見し、胸が熱く、感銘を受けている。昨年8月9日の田沢湖田沢供養佛土石流災害、本年6月1日・2日の駒ヶ岳滑落事故と痛ましい自然災害が相次いだ。仙北市は今、命を守る改善策を早速具体化している。一人でも多くの観光客を安心してお迎えし、また市民が二層健康で安全、豊かな毎日を過ごせるよう、喧々囂々の中にも、お互いの意見を尊重し、市民視線を第二義に、前向き・建設的な議会運営を望む。

二度傍聴してみるのが」と市民に受け入れられる優しい議会だよりを楽しみに。

## 広報編集特別委員会

- 佐藤 大成 黒沢 龍己
- 高橋 豪 小林 幸悦
- 熊谷 一夫 真崎 寿浩
- 門脇 民夫 高久 昭二
- 阿部 則比古 荒木 田俊一



駒ヶ岳山頂はラッシュ (男岳)



可憐に咲いた駒草

## 編集後記

この6月定例会が改選後初の定例会になります。委員の顔ぶれも大幅に変わったので冒頭に早速編集委員会を開き今後の紙面構成や編集方法を話し合いました。表紙から内容まで大きく変えようとの声が多かったのですが現実問題としてページ数が印刷会社への入札段階で全16ページに制限されており、見出しの文字

を大きくしたり、写真を多用すると文字数を削らなければならず、内容の乏しいものになってしまいます。総花的な構成はやめて、現在、当局や議会内で問題になっている事柄を抽出してお伝えするべきとなりました。

本号はこれまでと内容的にそれ程大差の無い構成になっていますが次号からそうした意見を反映させてまいりますので、ご愛読を宜しくお願いたします。

(阿部則比古記)